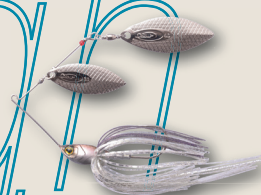


O.S.P. Journal

OSPREY
SPIRITUAL
PERFORMER

ハイピッチャーマックスが
釣れる秘密を徹底暴露!!



琵琶湖プロガイドの二人が明かす
ハイピッチャーマックスが
釣れる理由。

Keita Oda & Tetsuhiro Morita

ハイピッチャーマックスの 並木敏成の出どころ

誕生から12年目を迎えるハイピッチャーは、いまや日本では不動の地位を築いているコンパクトサイズのスピナーベイトである。これに対し、世界的に見ると標準的なサイズのスピナーベイト、それがハイピッチャーマックスだ。ハイピッチャーはミノードいうと7~9cm未満、クランクベイトでは45~50mmサイズに対し、ハイピッチャーマックスはミノードで9~11cmクラス、クランクでは50~65mmぐらいをイメージすると、風がある状況化やバスの密度が薄いとき、デカバス狙い、広大なウィードエリアを探るときなど、ハイピッチャーマックスの使いどころが見えてくるだろう。ちなみにハイピッチャーマックスには $\frac{1}{2}$ oz(リアブレードが#4.0)と $\frac{3}{8}$ oz(同#4.5)にブレードサイズの境界線がある。 $\frac{3}{8}$ ozに関していうとヘッドが重くなってもブレードも大きくなるため、単純に重量がアップしたからといって一気に落ちるわけではない。水面から例えば1mぐらいを引くときに $\frac{3}{8}$ ozを使ったり、もっと速いリトリーブで攻めたいなら $\frac{1}{2}$ ozを使うことも。大きめのブレードを重たいヘッドで飛ばし、早めのリトリーブで効率よく探ることができる。そんな使い方こそ、自分のハイピッチャーマックスの出どころである。 $\frac{3}{8}$ ozはシャローのデッドスロー、 $\frac{1}{2}$ ozはシャロー専用機、そして $\frac{3}{8}$ ozと $\frac{1}{2}$ ozはシャローを中心にハイアピールで使うときもあれば、 $\frac{1}{2}$ ozに関しては5mほどのディープで引くことも。それぞれに使いどころがあるハイピッチャーマックスを、ぜひ巧みに使い分けてほしい。

by 並木敏成

Special!!

ポテンシャルを120%引き出す!!
三宅貴浩の
ハイピッチャーマックス塾

無料

ご自由にお取りください

三宅貴浩の

ハイピッチャーマックス



スピナーベイトが苦手な人は、ハイピッチャーマックスを使って！
という琵琶湖プロガイド・三宅貴浩が
ハイピッチャーマックスの使いこなし術を教えます!!
ハイピッチャーマックスがひとつあれば、さまざまな状況に対応してくれる頼れるパートナー。
あなたのタックルボックスに、必携のアイテムです!!

ポテンシャルを
120%引き出す!!



TAK's Tips 4

フラッシングで寄せてHPで食わせる

濁ったりタフなときに効くのが、HPシャッドテール3.1インチをトレーラーにセットしたハイピッチャーマックス。リトリブ時、およびフォーアールのフラッシングでバスに気づかせ、トレーラーで食わせるのだ。ワームはトレーラーフックに縫い刺してセットするのが三宅流。



TAK's Tips 5

ロッドとラインは一直線に構える

「ガイドのお客さんでも多いんですが、ロッドとラインに角度をつけてしまうとティップが入るのでスタックしやすいんです。角度をつけず一直線にしているとアワセやすいというメリットもあります。ウィードも感じやすいので、できればこの巻き方をおすすめします」



TAK's Tips 6

手前に来るほど巻き速度を落とす

着水点から足元まで同じスピードで巻いていると、手前に来るほど浮き上がってくるので同じレンジをキープできない。スプールの糸巻き量が増えることでハンドル一回転あたりの巻き取りが早くなる、というのがその理由だ。手前にくるほどゆっくり巻く。これ、常識!



ハイピッチャーマックスしかあかん場面ってあるんです!

スピナーベイトが苦手っていう人、けっこういるんですよ。ガイドに来てくださるお客さんの中にも意外と多い。その理由の多くは「何をしているのかわからない」というもの。ブレードがグルグル回っていても、自分が引いているとき、それが伝わってこない、もしくは感じられていない。これが、スピナーベイトに対して、苦手意識を抱かせてしまっているんですね。あとはエサとは似ても似つかない独特の形状も、その理由なのかも。でも、そのお悩み解決にひと役もふた役も買ってくれるのが、ハイピッチャーマックスです(以下、ハイピッチャーマックス)。

O.S.Pにはハイピッチャーという、コンパクトサイズのスピナーベイトがありますよね。非常に人気を博しており、O.S.Pの代名詞と言っても過言ではありません



ん。では、後発で追加になったハイピッチャーマックスとどう使い分けられるの? って思っている人も少なからずいるでしょう。結論から言うとこのふたつには明確な差があって、ハイピッチャーマックスにしかサカナを引っ張れないというシーンがあります。そこでここでは、ハイピッチャーマックスの特徴について詳しく解説していきます。ハイピッチャーマックスの長所を知れば、その使い分けがおのずと理解できるでしょう。



一にも二にもブレードの回転水中の様子を把握することも可能

ハイピッチャーマックスの最大の特徴は、何といってもブレードの回転。これがハイピッチャーマックスとの違いであり、使い分けのキモになる部分です。勘違いしないでくださいよ、ハイピッチャーマックスのブレードもしっかり回ります。でも、マックスのほうがトルク

フル、ってことです。すごく巻き感がある。そう覚えてもらうといいかもしれませんね。

ハイピッチャーマックスと比べるとハイピッチャーマックスはレギュラーサイズになったことで、ブレードももちろん大きくなりました。これにより単純にアピール力が増しただけでなく、ゆっくり引くこともできます。同じウエイトで比較したとき、ハイピッチャーマックスの1/2オンスとハイピッチャーマックスの1/2オンスでは、ハイピッチャーマックスのほうがゆっくり引ける。ブレードが大きくなった分、抵抗も大きくなるんじゃないですか。これは琵琶湖では非常に大きな、いや琵琶湖だけじゃなく、いろんなフィールドで大きな武器になると思います。ハイピッチャーマックスでゆっくり引けるんですから。



さらにこのブレードの回転が、冒頭でお話したスピナーベイトの苦手意識を克服してくれると思うんです。ブレードが水中で回転していることが、手元にはっきり伝わってくる。このトルクフルな回転のたまものと言ってもいいでしょう。ゆっくり

り巻いても「あ、ブレードが回ってる」というのはわかりますし、速く巻けばそれだけ回転が強くなっていることも、わかってもらえると思います。

ブレードの回転を把握できれば何をやっているかがわかる

琵琶湖でオーソドックスなスピナーベイトの使い方として、スローロールがあります。スピナーベイトが苦手な人は、スローロールって何よ、ってなると思うのですが、ハイピッチャーマックスを使えばその問題を解決してくれます。何度も言っていますが、ホントにブレードの回転がわかりますから。

で、何が言いたいかというと、琵琶湖ではウィードトップにスピナーベイトをかすめながら引いてくるスローロールを、ハイピッチャーマックスを使えば簡単に実践できるってことです。例えばウィードトップが2mのところを引いてくる釣りがあるとしたら、そのときに重要なのがレンジコントロール。要は、指定のレンジをキープしながら引いてくるってことなんですけど、何もなしで2mレンジを一定に引いてくるのはどんな達人でも難しいと思います。でも琵琶湖の場合、ウィードトップにかす



めることで、そのレンジをキープすることができず。なぜならそのウィードに当たっている、当たらないがその証拠になるから。当たらずにウィードトップより上のレンジを引いていることになり、当たりすぎるとウィードトップどころか、その中に入ってしまったことになる。そこで注目してほしいのが、ハイピッチャーマックスのブレードの回転なんです。ブレードの回転に異変が生じたら、それが即座に信号となってアングラーに伝わ

る。ブレードにウィードの切れ端が絡んで回転を妨げるような事態が生じたときも、すぐにその異変がわかる。それに気づけないようでは、その1キャストが無駄になってしまう。これはウィードだけでなく、例えば岩にときおり当てながら引く、といった使い方でも威力を発揮してくれるでしょう。琵琶湖に限らず、みなさんのホームフィールドでも必ず生きてくる特徴だと思います。

もちろんスローロール以外にも、使いどころはあります。リーズ際などのシャローをスナッグ

もちろんスローロール以外にも、使いどころはあります。リーズ際などのシャローをスナッグ

もちろんスローロール以外にもハイピッチャーマックスの出番はたくさん!

もちろんスローロール以外にも、使いどころはあります。リーズ際などのシャローをスナッグ

ハイピッチャーマックスを使えばあなたにもロクマルが釣れる!!



手元に伝わるトルクフルなブレードの回転はスピナーベイトの釣りの楽しさも伝えてくれる。

TAK's Tips 1

減水時はやや沖まで通す

減水したシャローでは、バスは元いた場所よりやや沖にポジションをとる。手前のちょっとした沈み物などで待機していることが多いので、減水しているときはやや沖までチェック。ハイピッチャーマックスはこうした減水で発生した濁りの中でも、しっかりアピールしてくれる。



TAK's Tips 2

前アタリでアワセたらあかん!

スピナーベイトを巻いていると「コンコン」とか「グッ、グッ」といった前アタリが出ることもある。そこでアワセではダメ。力強く抑えるような「ゴン」というアタリがあってはじめてフッキングするのだ。「前アタリでアワセたら、一生ノリませんから注意です」と三宅。



TAK's Tips 3

リールはハイギアで感度アップ

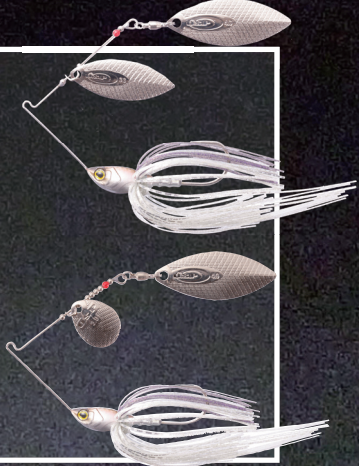
スピナーベイトに不慣れなアングラーには、ハイギアのリールをおすすめする。ハイピッチャーマックスのブレードの回転を、より感じることができるから、と三宅。6.3よりも7.1にしたほうが、よりその回転を感じるができるという。「卓越してきたらローギアでもOK!!」



TAK's Tips 7

DWとTWをどう使い分けるのか

ブレードタイプについて、フラッシングが強いののがDW、バイブレーションをより感じられるのがTWというのが三宅の見解。これをもとに例えば水深4mまでカウントダウンで沈めて、そこから一定層を引くというときはフォーアールのアピールと深層でもバイブレーションをしっかり感じられるTWをチョイス。濁りが入っていたりローライトの中で、広範囲のバスを寄せるのはフラッシング重視のDW、というのが基本的な使い分けだ。



昨年の晩秋、琵琶湖にて行われた週刊ルアーニュースのロケでは、65cm・5.5kgというモンスター級の一匹をハイピッチャーマックスでキャッチ! その模様は誌面だけでなく動画も公開された大きな反響を呼んだ。水中映像によるバイトシーンも必見!!
http://lurenews.tv/2015/11/6555up.html

